

ISO / TC249とは

ISO（国際標準化機構）は、1947年に設立された非営利法人です。ISOが策定した国際規格をISOと呼び、国ごとに異なる製品の構造・性能や技術の規格を統一した標準です。紙のサイズや電池のサイズ、ネジや非常口のマークなども国際標準であり、加盟国の国内標準は国際標準を基礎として作成しなければなりません。

TC249は、ISOの249番目の技術委員会です。事務局は中国・上海にあり、現在6つのワーキンググループ（WG）で国際標準規格が審議されています。

- WG1 天然薬物の安全性
- WG2 中医薬製品の安全性と品質
- WG3 鍼灸鍼の品質および治療や治療効果を除く鍼の安全な使用に関する標準化
- WG4 鍼以外の医療機器の品質と治療や治療効果を除くこれらの医療機器の安全な使用
- WG5 用語と情報の標準化
- JWG1 TC215情報科学とのジョイントWG

WHO - FIC（国際統計分類）は

WHO加盟国は死亡率や罹患率の統計に最新の国際疾病分類（ICD）を使用することとなり、この第11回改訂版（ICD-11）が2022年1月に発効します。

今回の改訂で「第26章 伝統医学の病態—モジュールI」が導入されました。世界人口の大多数は何らかの形で伝統医療を用いていますが、これまでの西洋医学ベースで作られたICDではデータを収集することもできませんでした。このような情報格差を埋めるためとされています。

「伝統医学の病態—モジュールI」は、ICDの西洋医学の章との組み合わせ、あるいは単独で使われることが想定されていますが、国内で鍼灸関連のデータがどのように収集・利用されるかは未知数です。鍼灸界としては、この伝統医学章を全国的に周知し、現場で積極的に使われるよう啓発していかねばなりません。

また、WHO - FICでは、医療行為の国際分類（ICHI）も開発中で、医療介入の分類に鍼灸や手技が含まれる方向です。

<参考文献・サイト>

- 1) 日本東洋医学サミット会議（JLOM）<http://jlom.umin.jp/>
- 2) ISO/TC249 <https://www.iso.org/committee/598435.html>
- 3) ISO/TC215 <https://www.iso.org/committee/54960.html>
- 4) WHO ICD-11 <https://icd.who.int/en>
- 5) WHO ICHI <https://icd.who.int/dev11/1-ichi/en>
- 6) 伝統医療と国際標準。あとととき創刊号, 2018
- 7) 齊藤宗則. ICD-11の伝統医学分類とICHI. あとととき第4号, 2019
- 8) レポートICD-11 伝統医学章新設記念講演会。あとととき第7号, 2020
- 9) 若山育郎. JLOMによるISO/TC249鍼灸関連活動。あとととき第8号, 2020
- 10) 東郷俊宏. 国際標準化は誰のためか。あとととき第9号, 2021

- 11) 若山育郎, 木村友昭, 新原寿志. 日本東洋医学サミット会議（JLOM）における鍼灸の現状。あとととき第10号, 2021
- 12) 日本診療情報管理学会 <https://jhim-e.com/>
- 13) 東郷俊宏. ISO/TC249 第4回全体会議の報告。鍼灸OSAKA110, 2013
- 14) 形井秀一, 東郷俊宏, 伊田屋幸子, 川鍋伊見. 座談会 ISO/TC249とモクサアフリカ 日本鍼灸の内側と外側。鍼灸OSAKA114, 2014
- 15) 齊藤宗則, 木村友昭, 新原寿志, 渡邊大祐. 座談会 ISO/TC249 第6回全体会議を終えて—国際規格策定の現場とは—。鍼灸OSAKA118, 2015
- 16) 田口太郎. ISO/TC249 第7回全体会議レポート・初参加の視点から。鍼灸OSAKA122, 2016
- 17) 松本毅. 灸機器の国際規格「ISO18666」は灸の臨床にどう影響するのか。医道の日本 885, 2017

本誌は創刊号「伝統医療と国際標準」以来、ISOとWHOで進行中の伝統医療の国際標準についてご紹介してきました。今回は、モノの規格と情報の規格に分けて、それぞれ最新の情報をお届けします。

国際標準策定の中では、伝統医療を言葉で表現しなければ議題にすることもできません。しかし、日本の伝統医療には言語化されていない情報が多く、常に臨床、研究、教育、製造、行政など、伝統医療に携わる方々の協力が求められています。

国際標準 キャッチ アップ

- 18) 東郷俊宏. ISOにおける伝統医学分野の情報規格について。鍼灸OSAKA124, 2017
- 19) 佐藤弘, 後藤修司, 森岡一. 座談会伝統的知識としての伝統医学—国際交渉と国内のバックアップ—. 鍼灸OSAKA126, 2017
- 20) 日本伝統医学テキスト 鍼灸編：22・23年度 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「統合医療を推進するための日本伝統医学の標準化」研究班 http://kampotextbook.sakura.ne.jp/pdf/Part2_Acupuncture_Textbook_of_Traditional_Japanese_Medicine.pdf
- 21) 柳川俊之, 津谷喜一郎: シリーズ中医薬の国際化と標準化に関する中国の政策1-23, 和漢薬, 2012-2016.
- 22) 渡辺賢治. 伝統医学が国際疾病分類（ICD）に入る意義（1）-（4）. 漢方の臨床, 64-67.8.9, 2017
- 23) 東郷俊宏. 伝統医学の病証を含むICD11（国際疾病分類第11版）の公表。あはきワールド2018

- 24) 東郷俊宏. ICD-11と伝統医学の病症. 中医臨床, 2019: 39 (3). 2-7
- 25) 矢久保修司, 並木隆雄他. 国際疾病分類第11改訂第26章 伝統医学分類がリリースされた。これまでと、これから。日本東洋医学雑誌, 2019: 70 (2) 167-174
- 26) 田上麻衣子, 森岡一, 東郷俊宏, 小野直哉. 世界情勢における鍼灸の国際標準化、利権競争の現状を知ろう。医道の日本, 2017: 6, 21-35
- 27) 東郷俊宏. 鍼灸領域の国際標準化の動向 WHOとISO. LISA. 2019: 26 (10) 998-1003
- 28) 東郷俊宏. 伝統医学（鍼灸分野）の国際標準化1980-2018: Part1. 全日本鍼灸学会雑誌. 2018: 68 (4) 337-346
- 29) 東郷俊宏. 伝統医学（鍼灸分野）の国際標準化1980-2018: Part2. 全日本鍼灸学会雑誌. 2019: 69 (1) 58-71